

第26期 中間報告書

2022年4月1日～2022年9月30日



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。

第26期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶を申し上げます。

本年は、当社の前身である大阪チタニウム製造株式会社が日本のチタン産業の創成時期であった1952年にスポンジチタン製造会社として創業してから70周年の節目を迎えます。株主の皆様をはじめお客様や多くの皆様方のこれまでのご支援ご厚情に心より感謝申し上げます。我々の70年間の歩みは日本のチタン産業の歴史そのものであり、今後も世界のチタン産業の隆盛に大いに貢献し、当社の発展を徹底追求してまいりますので、引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りたく存じます。

さて、2022年度上半期における我が国経済は、新型コロナウイルス感染拡大に対する行動制限が緩和されるなど、徐々にではありますが、景気回復の兆しがみられました。しかし、未だパンデミック以前の状態に回帰するまでには至っておりません。更に、各種物価の高騰や為替レートの円安進行などにより景気の先行きは不透明な状況が続いております。海外経済におきましても、各国は経済対策を継続しつつも欧米を中心に金融引き締めが進められております。また、長期化するロシアによるウクライナへの軍事侵攻がエネルギー資源や各種原材料価格の騰勢を誘起し、サプライチェーンの混乱なども加わり海外経済におきましても不透明感が増している状況にあります。

こうした中において当社のチタン事業におきましては、段階的ながら航空機及び一般産業向けにチタンの需要回復が進展しつつあること、ウクライナ危機を端緒にグローバルサプライチェーンの再編が検討されはじめたことによる追加需要などが背景となってスポンジチタンの販売数量は増加いたしました。航空機用途が主体である輸出向けスポンジチタンの売上高は前年同期比69.6%増加いたしました。一般産業用途が中心である国内向けスポンジチタンの売上高も同88.4%増加し、いずれにおいても大幅に改善いたしました。チタン事業の売上高は17,407百万円（前年同期比76.1%増）となりました。

半導体市場の関連製品であるスパッタリングターゲット用高純度チタンの販売数量が堅調に拡大した一方、積層造形向け球状チタン合金粉末（製品名 合金TILOP）の販売数量が増加したことなどにより、高機能材料事業における売上高は2,224百万円（前年同期比48.4%増）となりました。

以上の結果より、2022年度上半期の売上高は、19,632百万円（前年同期比67.9%増）となりました。また、チタン鉱石や電力価格の上昇等の収益の悪化要因はありましたが、需要回復を背景とするスポンジチタン工場の稼働率の改善や販売数量の回復がある中で、価格適正化の進展、為替差益等も加わり、営

業利益は2,017百万円（前年同期は1,000百万円の損失）、経常利益は2,906百万円（前年同期は913百万円の損失）、当期純利益は2,192百万円（前年同期は933百万円の損失）となりました。

なお、2022年度の通期業績につきましては、売上高43,000百万円、営業利益3,000百万円、経常利益3,900百万円、当期純利益2,900百万円を予想しております。これらを勘案いたしまして当期中間配当として1株当たり10円の復配とさせていただきます。また、期末配当につきましても、配当予想を1株当たり10円といたしております。

以上のように事業環境は好転しつつありますが、エネルギー資源をはじめ各種原材料価格の更なる高騰も予測され、全社一丸となった合理化やコスト低減を継続いたします。また、価格適正化の取り組みや高い収益性が期待できる製品群の拡販を進め、収益基盤の強化を図ります。中長期の経営課題である「主力事業であるチタン事業を中心に『収益力』の向上と『成長戦略』への回帰」を鋭意進めてまいります。また、高純度チタン等の高付加価値製品で、高い成長性が見込める市場に製品提供する事業拡大を推進することによって「事業ポートフォリオの変革による『収益構造』の強化」を進めてまいり所存です。株主の皆様におかれましては、引き続き格段のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年11月

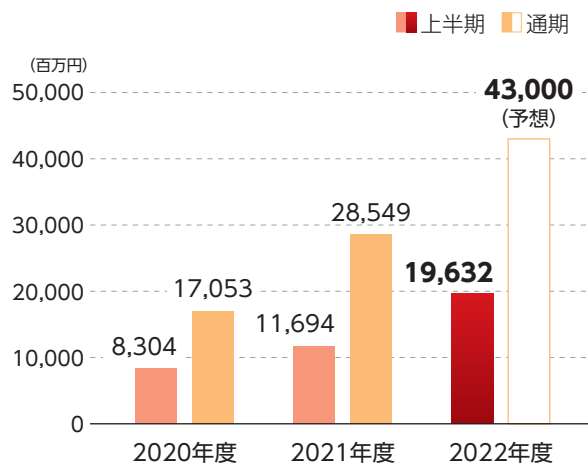


代表取締役社長

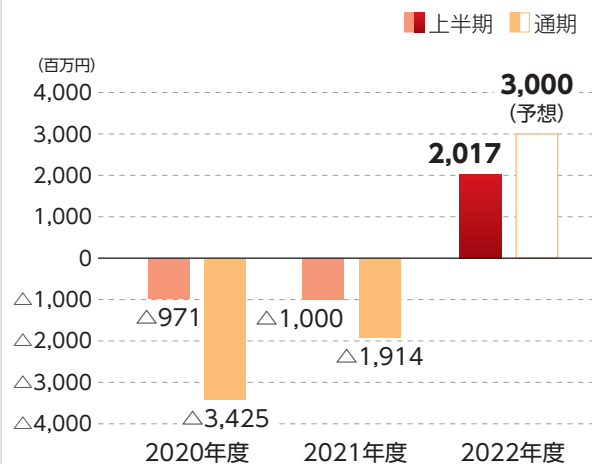
杉崎 康昭

業績ハイライト

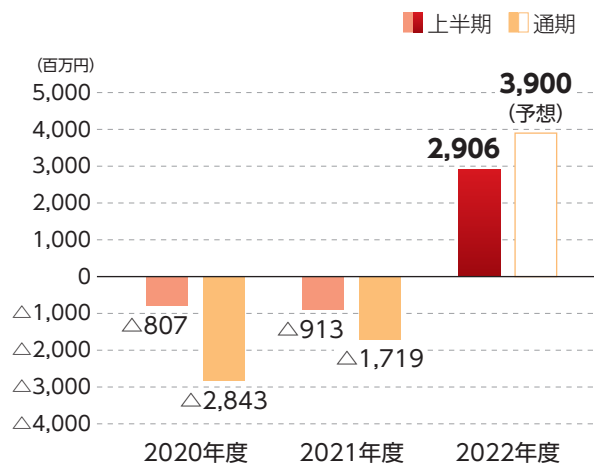
売上高



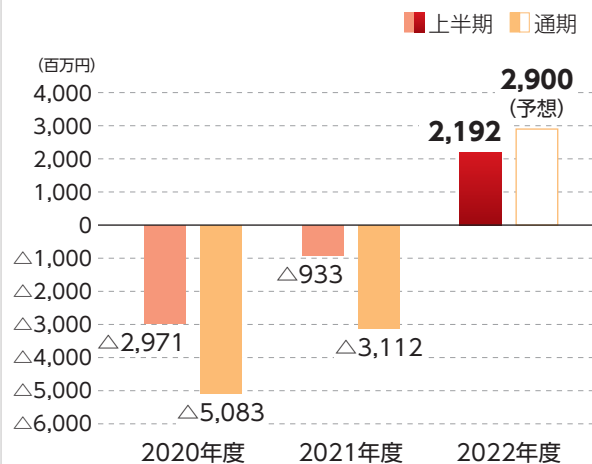
営業利益



経常利益



純利益



当社事業の紹介

当社は、高品質・高性能のスポンジチタン、チタンインゴットを製造・販売しております。また、高機能材料の製造・販売に加えて、新用途品の開発にも注力しています。当社の事業は次のとおりです。



当社事業の特徴

チタン事業

独自技術の開発とノウハウの蓄積により、質・量ともにスポンジチタンのトップメーカーとしてお客様から絶大なる評価をいただいております。また、スポンジチタンを主原料としてチタンインゴットも製造・販売しております。

高機能材料事業

航空機部品や医療部品を製造するための原料として期待されるTILOP(タイロップ)、半導体・液晶用ターゲット材として使用される高純度チタン、包装材料やリチウムイオン二次電池の次世代負極材として使用されるSiO等の製品を製造・販売しております。

おかげさまで創業70周年を迎えました

当社の前身である大阪チタニウム製造株式会社は、我が国初のスポンジチタン製造会社として1952年11月26日に創業し、本年に70周年を迎えました。この70年間の歴史は、まさに日本のチタン産業の歴史そのものでもありました。

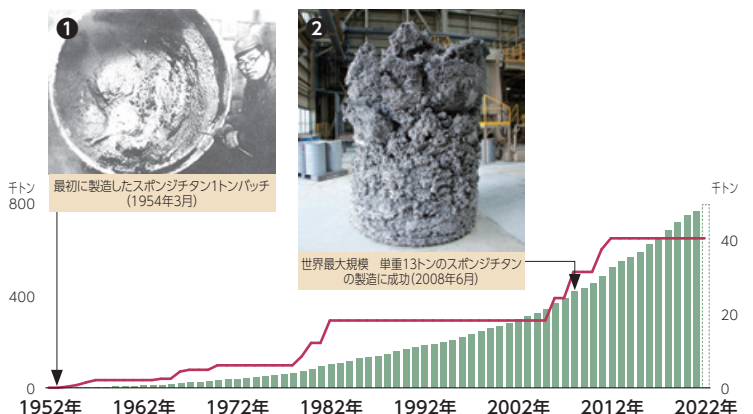
単重1トンのスポンジチタンの製造を1954年より開始し^①、本格商業化を始動しました。これまで多くの製造技術の開発に取り組み、現在では世界最大規模である単重13トンによる製造が可能になりました^②。当社は、高品位なスポンジチタンを永年にわたって安定して製造し続けてきました。今日では品質及び生産規模ともに世界トップクラスのスポンジチタンメーカーに成長しました。近年、チタンの主な用途である航空機ではエンジン部材ばかりで

はなく、炭素繊維材料と共に機体に多用（従来の約5倍）され、需要も飛躍的に拡大しております。当社は、航空機用途をはじめ一般産業用途向けに成長する需要に応えるべく、生産設備の拡張や新設を行い、また、生産技術のブラッシュアップを継続しながら、安定供給に努めることでお客様の信頼に応えてまいりました。本年度にはスポンジチタンの累計生産量は、80万トンに達する見込みです^③。

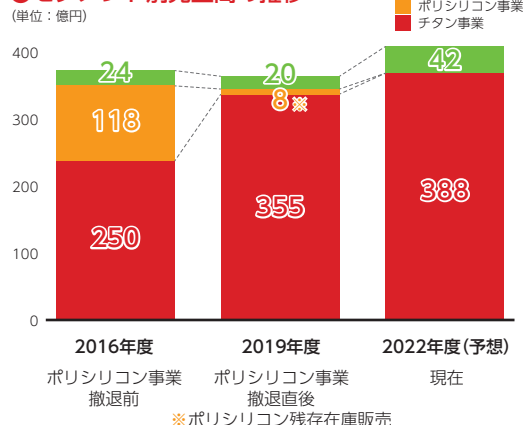
一方、当社は新たに事業構造の変革に挑戦しております。2018年度に撤退したポリシリコン事業に代わる経営のもう一つの柱となる高機能材料事業の育成にも取り組んでおります。半導体市場向けに提供している99.999%級の高純度チタンの拡販をはじめ、積層造形（3Dプリンター）市

場に向けた球状チタン合金粉末（製品名合金TILOP）の事業化を推進しております。合金TILOPの専用工場（生産能力100トン/年）を2020年9月に完成させ、事業化に取り組んでおります。いずれも将来の成長に向けて順調に事業を伸ばしつつあります^④。また、新たな事業の萌芽に向けて当社独自技術によるリチウムイオン電池用高性能SiO負極材の開発を進めております。本年3月にパイロットプラントを完成させて事業化を加速させてまいります。今後も、これらの高成長が期待される市場において、当社ならではの技術や製品を提供することにより、チタン事業の発展と共に事業構造の強化を図りつつ成長戦略を推進してまいります。

③当社のスポンジチタン生産量



④セグメント別売上高の推移



2023年3月期上半期の業績

■ 貸借対照表(要約)

(単位：百万円)

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	44,872
現金及び預金	9,266
売掛金	16,689
商品及び製品	9,367
仕掛品	3,146
原材料及び貯蔵品	6,294
その他	111
貸倒引当金	△3
固定資産	34,764
有形固定資産	32,937
無形固定資産	775
投資その他の資産	1,051
資産合計	79,637
負債の部	
流動負債	25,533
固定負債	25,424
負債合計	50,957
純資産の部	
株主資本	28,646
資本金	8,739
資本剰余金	8,943
利益剰余金	10,974
自己株式	△10
評価・換算差額等	33
純資産合計	28,680
負債純資産合計	79,637

■ 損益計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	19,632
売上総利益	4,019
営業利益	2,017
経常利益	2,906
税引前四半期純利益	2,637
四半期純利益	2,192

■ キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位：百万円)

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,637
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,041
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,399
現金及び現金同等物の期首残高	10,666
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,266

■ 事業別売上高

(単位：百万円)

区 分	金 額	
チ タ ン 事 業	国 内	6,444
	輸 出	10,962
	計	17,407
高機能材料事業	2,224	
合 計	19,632	

(注)記載金額は、表示単位未満の端数を切り捨てにより表示しております。

会社の概要

(2022年9月30日現在)

創 業	1952年11月26日
資 本 金	87億3,962万円
従 業 員 数	654名 (注)上記の他、臨時従業員が43名(平均雇用人数)在籍しております。
事 業 所	本社・尼崎工場 兵庫県尼崎市東浜町1番地 岸和田製造所 大阪府岸和田市岸之浦町3番2 東京支社 東京都港区東新橋二丁目14番1号NBFコモディオ汐留2階
事 業 内 容	チタン事業 高機能材料事業

取締役の状況

(2022年9月30日現在)

代表取締役社長	杉崎 康昭
取 締 役	高橋 悟
取 締 役	辻 正行
取 締 役	川福 純司
取締役(監査等委員)	島本 信英
社外取締役(監査等委員)	飯島 奈絵
社外取締役(監査等委員)	山口 重久
社外取締役(監査等委員)	村田 雅詩

株式の状況

(2022年9月30日現在)

発行可能株式総数	125,760,000株
発行済株式の総数	36,800,000株
株主数	19,173名

大株主

株 主 名	所有株式数 (千株)	所有株式数の割合 (%)
株式会社神戸製鋼所	5,500	14.95
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	3,204	8.71
日本製鉄株式会社	1,807	4.91
GOLDMAN, SACHS & CO, REG	1,381	3.76
株式会社日本カストディ銀行 (信託口)	1,172	3.19
JPLLC-CL JPY	1,117	3.04
野村證券株式会社自己振替口	940	2.55
住友商事株式会社	864	2.35
HAYAT	683	1.86
日本証券金融株式会社	619	1.68

(注)所有株式数の割合は、発行済株式の総数から自己株式数を除いて算出しております。

トップポリシー

1. 私たちはお客様との長期的なパートナーシップを大切にし、お客様の発展に寄与することで私たちの成長を目指します。
2. 私たちは常に「安定品質」、「安定供給」、「安定価格」を目指し、そのための最大限の努力を払います。
3. 私たちは「安全」かつ「健全」な職場作りに力を注ぎ、全てのステークホルダーとの信頼関係を築くことで社会との共生を目指します。

ブランドスローガン

New Challenge Best Quality

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 毎年3月31日 中間配当金 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所 (郵便物送付先)	大阪市中央区北浜4丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	☎ 0120-782-031 受付時間9:00～17:00(土日休日を除く)
公告の方法	電子公告 https://www.osaka-ti.co.jp/

【株式に関するお問い合わせ先について】

住所変更等のお届出・ご照会は、証券会社に口座を開設されている株主様は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記当社株主名簿管理人にお問い合わせください。

株式会社 大阪チタニウムテクノロジーズ



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。



この印刷物は、FSC®認証材及び管理原材料から作られたFSC®認証紙を使用しており、また、環境に配慮した植物油インキを使用しております。

